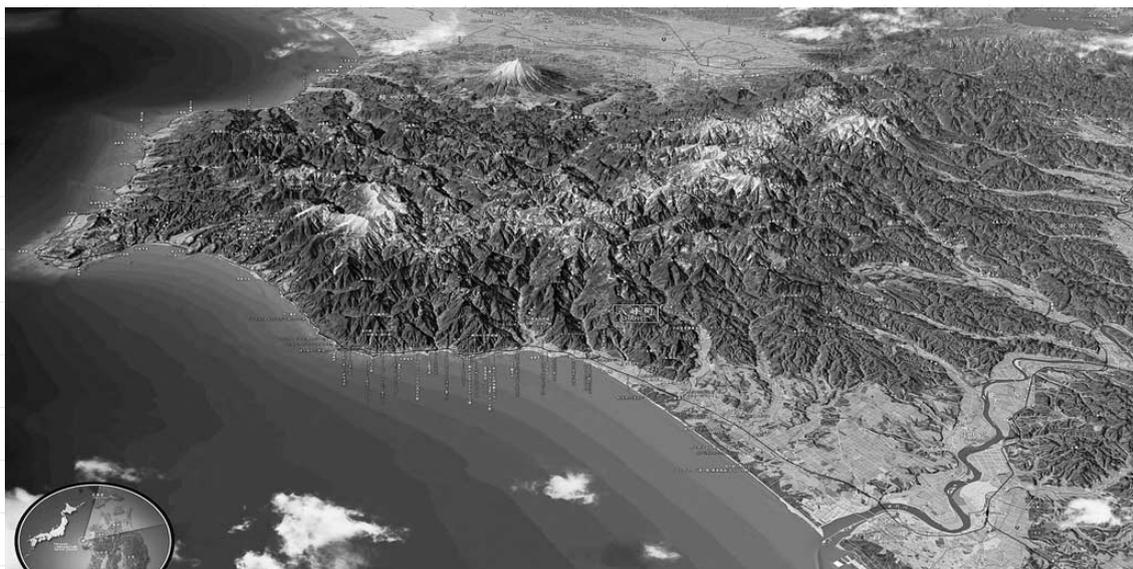


新年おめでとうございます
八峰白神ジオパーク
充実の年となりますよう



八峰白神ジオパークを中心に
周囲の様子を入れました

ジオアートをみて

春先、晴天であれば北帰行の渡り鳥たちが白神山地を越えて北海道方向に飛びます。その時鳥たちが見る白神山地は上のジオアートのように見えるのではないのでしょうか。このような地形図を「鳥瞰図」と呼んだ先達は良い名前をつけたものと感心します。この言葉に触発されたのでしょうか、海底地形図を「鯨瞰図」と呼んでいます。

ここに掲げた鳥瞰図は八峰白神ジオパークを中心にすえ、手前には日本海が広がり、後方には白神山地の全容が、さらにその後ろには津軽平野が広がっています。また、白神山地と津軽平野の境には火山である岩木山がそびえ、その容姿が富士山を想わせるので別名「津軽富士」とも呼ばれています。

次に鳥瞰図を右にたどっていくと地図の右端に十和田湖があります。この湖は火山の山頂部を中心に鍋の形に陥没してしまつた所に水が溜まつて出来たもので、カルデラ湖といわれています。

十和田湖を作つた火山は過去3回の大噴火があり、その都度たくさんの軽石を噴出しました。その一部が川の水と共に米代川を西に流下し、能代平野にたくさんの軽石をばら撒きました。海に出た軽石は海岸に打ち上げられていました。

八森ハタハタはなぜ美味い？

12月頃になるとハタハタが接岸します。普段は深い海底に堆積している砂とか泥の中に体のほとんどを埋め、頭の一部と背中だけ出しているそうです。外国ではハタハタのことをサンドフィッシュと呼ぶそうですが、サンドは砂、フィッシュは魚の意味ですので、日本語に直訳すると「砂の魚」とでもいうところでしょうか。

海底の水温はかなり低いそうです。だからハタハタは温かい水は苦手なのです。そこでハタハタには大きな悩みが生ずることになります。それは卵を孵化するには温かい水が必要なのです。この矛盾を解決するためにハタハタは命がけの大冒険をしなければなりません。

んでした。

親が生き延びることが出来る水温と卵が孵化できる水温が同時にある場所を探し、そこまで泳ぎ着かなければなりません。そんな場所が一体あるのでしょうか。それがあつたのです。真瀬川河口と海の二ツ森が東北日本海では最高の場所なのです。ところがこの場所には自分たちの生活している海底から一番遠いのです。この長旅に耐える体力が親には必要だったので。鳥瞰図を見ながら、この場所は雪のある白神山地から近いこと、深海底から遠いことを確かめてください。

こうして考えてみると、ハタハタが接岸する時期を12月頃と決めた訳や産卵場所を八森沿岸にした訳、そしてなぜ八森ハタハタが美味いのかなど興味深いハタハタの習性などに気付きませう。

ジオアートを眺めながら自分なりに考えて楽しむひと時を過ごしてみませんか。

ジオアート 価格・販売先

ジオアートシリーズ「八峰白神ジオパーク」

定価 1,000円(税込)

販売場所

- ① ポンポコ山パークセンター
- ② あきた白神体験センター
- ③ 白神ネイチャー協会(ぶなつこランド内)
- ④ ハタハタ館
- ⑤ 白神カフェ
- ⑥ 白神森海
- ⑦ 腰山商店
- ⑧ あきた白神温泉ホテル

※販売に関しては各販売店にお問合せください。

八峰白神ジオパーク推進協議会

会長 工藤 英美

八峰白神ジオパーク推進協議会

〒018-2612

秋田県山本郡八森町八森字ノケソリ116

旧岩館小学校内

TEL 0185-78-2427